

中津川市
博物館
だより

恵那山

2025
Vol.26, No. 4



市民の方から寄せられた懐かしの逸品

企画展

昭和100年の中津川 レトロ総集編

会期：令和7年9月30日(火)～令和8年3月29日(日)

会場：中山道歴史資料館 第2展示室

鉱物博物館

第44回私の展示室 俳句の刻まれた川原の石—「六歌仙塚」の石碑と中津川—

3月20日(金・祝)から

中山道の中津川宿から見て東に位置する旭ヶ丘には、天明3(1783)年建立の「六歌仙塚」と呼ばれる句碑が残されていて(5つが現存)、それぞれに石材の質を見極めその石のすがたを詠み込んだ句が刻まれています。どんな石か調べてみると、句碑に使われたのは市内を流れる川の川原石でした。

川原の石でできた句碑からは、土石流などの災害とも深くかかわる、中津川市の地質背景が浮かびあがってきます。これら句碑の石の来歴を紹介します。

- 会期／3月20日(金・祝)～5月31日(日)
- 会場／鉱物博物館 企画展示室
- 休館日／毎週月曜日(詳しくは8ページをご参照ください)



「六歌仙塚」と呼ばれる5つの句碑
左から月石、涼石、削石、雪石、萩石
中津川市中津川



句碑と同様の石質と大きさの石が転がる
中津川の川原
中津川市かやの木町

(大林)

苗木遠山史料館

苗木城築城500年記念企画

江戸時代料理復元シリーズ 第28回 大名接待料理復元展

3月7日(土)から

苗木城築城500年記念企画として、28回目となる江戸時代料理復元シリーズを開催します。

苗木藩11代藩主遠山友寿が江戸上屋敷に友人7名を招いて懇会をひらいた日、文化14(1817)年・旧暦10月9日の接待料理の献立を、藩主の江戸日記に基づいて再現します。

- 会期／3月7日(土)～3月15日(日)
- 会場／苗木遠山史料館 特別展示室(2F)
- 休館日／毎週月曜日(詳しくは8ページをご参照ください)



昨年の復元料理



苗木藩11代藩主遠山友寿公「江戸日記」

(浅井)

中山道歴史資料館

企画展 昭和100年の中津川 レトロ総集編

3月29日(日)まで

昭和元年から数えて100年という節目を迎え、昭和を懐古する催しが各地で行われています。この時代、日本は第2次世界大戦や戦後の復興と高度成長を経験しました。激動の時代であり、挫折から希望に満ちた未来に向かって邁進した時代もありました。年配の方はこの時代を懐かしみ、若い世代は古き良き時代として憧憬を抱くかもしれません。

上期企画展「中津川レトロ展」では紹介しきれなかった、市民の皆様のご協力による思い出の品々を加え、どこにでもあった「昭和の茶の間」を再現しました。中津川の昭和を記録した写真や資料とともにご覧ください。

- 会期／令和7年9月30日(火)～令和8年3月29日(日)
- 会場／中山道歴史資料館 第2展示室
- 休館日／毎週月曜日(詳しくは8ページをご参照ください)
- 入館無料日／1月10日(土)・2月1日(日)・3月1日(日)



昭和の茶の間の再現(昭和30年～40年頃を想定)

(伊藤)

東山魁夷心の旅路館

第Ⅳ期展 静謐—青色の風景

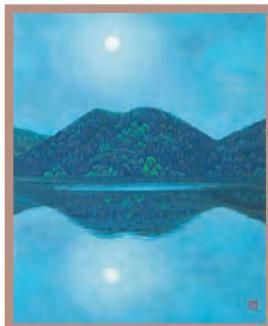
1月6日(火)から

青色は自然と精神を深く結びつける神秘的な色とされます。魁夷が描く青の風景は、多様な感情を抱かせながら、観る者の心の奥に沁み込みます。「東山ブルー」とも呼ばれる美しい青色の濃淡で描かれた作品を紹介します。

- 会期／令和8年1月6日(火)～3月15日(日)
- 会場／東山魁夷心の旅路館
- 休館日／毎週水曜日(詳しくは8ページをご参照ください)



白夜光(カラーコロタイプ)



月唱(新復刻画)



北国の森(木版画)

(入曾)

熊谷樞つけちギャラリー

第Ⅲ期展 「ただいま付知川」 村上康成の世界展～自然へのまなざし

5月10日(日)まで

絵本作家・村上康成氏は、岐阜県の豊かな自然あふれる環境のなかで幼少期を過ごしました。小学生の時に付知川で見た魚の群れの思い出が、原風景として現在でも村上氏の制作の原点となっています。

美しい川の光の中で、アマゴの大群がきらきらと輝く光景が、絵本デビュー作となった『ピンク、ぺっこん』誕生のきっかけとなりました。

今回の展覧会では、「ただいま付知川」をテーマとし、付知川の思い出と繋がるピンクシリーズの名場面を原画で展示します。また、本展のために制作された大作「おどり、きらめく、川」を初公開します。

中川ひろたか氏との「ピーマン村」シリーズや新作『わく』など絵本作品の名場面の原画や、タブロー、2026年カレンダーの原画、雑誌の表紙絵原画なども展示し、村上氏の絵本作家としての今日までの歩みとともに、表現への数々の挑戦を通して紹介します。

自然の営みや、「いきもの」をめぐる「いのち」の循環に、あたたかくも鋭いまなざしを投影した名作を、この機会にぜひご鑑賞ください。

- 会期／令和7年12月12日(金)～令和8年5月10日(日)
前期：令和7年12月12日(金)～令和8年2月23日(月・祝) 後期：令和8年2月27日(金)～令和8年5月10日(日)
- 会場／熊谷樞つけちギャラリー ■開館日／金・土・日および国民の祝休日 ■入館無料日／1月11日(日)
- 関連の催し
村上康成氏によるギャラリートーク 日時／2月1日(日) 13:30～ 費用／入館料のみ (上田)

- 各教室・講座の申込方法など詳細は、各館のご案内をご参照ください。
- 各館の連絡先は8ページをご参照ください。



最新情報は各館にお問い合わせください。
中津川市の博物館WEBサイトでもお知らせします。
※右の二次元コードを読みとると、中津川市の博物館WEBサイトが表示できます。



中津川市の博物館WEBサイト

苗木遠山史料館



苗木城築城500年記念講座 「苗木藩最大の波瀾 尾張藩久田見村との山論」

苗木藩には、藩の存続にかかわる大きな危機が三度ありました。その危機を概観し、最大の危機であった文政年間の大藩・尾張藩との山論の経過と結果を詳しく見ます。

■講師：調査員 千早保之

開催日	1/16(金)		
時 間	13:30~15:00	対 象	一般
定 員	30名	費 用	資料代 250円
申 込	開催日まで隨時受付、先着順		
その他	持物：筆記具		



古文書教室 史料館文書を読む

遠山家古文書を解読しながら、みんなで学びます。

■担当：調査員 加藤宣義

開催日	第10回 1/24(土) 第11回 2/28(土) 第12回 3/28(土) 毎月第四土曜日
時 間	13:30~15:00
定 員	20名
申 込	開催日まで隨時受付、先着順
その他	持物：筆記具、くずし字用例辞典



中山道歴史資料館



文学講座 島崎藤村の『夜明け前』を味わう Ⅲ

木曾の文豪・島崎藤村の『東方の門』を朗読しながら、わかりやすく解説していきます。

■講師：館長 西村友孝

開催日	第18回 1/7(水)	第19回 1/21(水)
	第20回 2/4(水)	第21回 2/18(水)
	第22回 3/4(水)	第23回 3/18(水)
時 間	毎月第一・第三水曜日	
定 員	13:30~15:00	
申 込	対 象 一般	
その他	14名	
	費 用 1回 250円	
その他	開催日の1週間前まで隨時受付、先着順	
	持物：『東方の門』掲載書籍	



子ども科学館



ペットボトルと光ファイバーで幻想的なアート作品をつくろう

ペットボトルを光ファイバーで飾りつけて、幻想的な光があふれる作品をつくります。

開催日	時 間	対象	定員	費用	講 師	申込
1/24(土)	10:00~12:00	小学生以上	12名	900円	職 員	締切 1/16



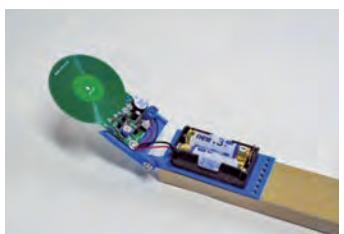
ペットボトルと光ファイバーで
幻想的なアート作品をつくろう



金属探知機をつくろう

手巻きコイルで自分だけの金属探知機をつくろう。

開催日	時 間	対象	定員	費用	講 師	申込
2/14(土)	10:00~12:00	小学生以上	12名	500円	職 員	締切 2/6



金属探知機をつくろう



おもしろ科学実験～実験と工作～

「なぞの光をみよう」「化石をつくろう」など、おもしろい実験と工作をします。

開催日	時 間	対象	定員	費用	講 師	申込
3/14(土)	10:00~12:00	小学生以上	7名	300円	桃井利次さん 他	締切 3/6

- 定員を超えた場合は抽選です。
- 抽選に当たった方には電話で連絡します。(不在の場合は、次の方が当選になることもあります。)
- 小学校3年生以下の参加には、大人の付き添いをお願いします。
- 費用は変更になる場合があります。

鉱物博物館



古代人のアクセサリー「まが玉」をつくろう

滑石というやわらかい石で「まが玉」をつくります。まが玉についてのミニ学習もあります。

開催日	時 間	対 象	定員	費用	講 師	申込	その 他
2/8(日)	10:00~12:00	小学生以上	18名	500円	職 員 友の会	1/10~1/23 抽選	小3以下は保護者同伴で 持物:古タオル・エプロン



金属の手鏡づくり

溶かした金属を固めて磨き、むかしの人が使ったような金属製の鏡をつくります。

開催日	時 間	対 象	定員	費用	講 師	申込	その 他
3/1(日)	9:30~12:00	小4以上	6名	600円	職 員	1/30~2/13 抽選	小3以下は保護者同伴で



ちっちゃな鉱物を標本にしよう



小さな鉱物でも立派な標本になります。

鉱物について学びながら、マイクロマウントとよばれる鉱物標本をつくりましょう。

開催日	時 間	対 象	定員	費用	講 師	申込	その 他
3/22(日)	10:00~12:00	小4以上	12名	400円	職 員	2/20~3/6 抽選	小3以下は保護者同伴で



古代人のアクセサリー「まが玉」をつくろう



金属の手鏡づくり

鉱物博物館

山口石—長島乙吉氏ゆかりの天然記念物

中津川市が指定する天然記念物のひとつに「ヤマグチ石」(1993年指定)があります。いったいどんな石かご存じですか。

ヤマグチ石(山口石)は、ジルコンという鉱物の変種です。

ジルコンは、花崗岩などの岩石中にわずかずつですが普遍的に含まれている鉱物で、硬く屈折率が高いため、透明度の高い結晶は輝きが強く、宝石にもなります。2021年には、12月の誕生石に加えられました。

ジルコニウム(Zr)を主成分とする珪酸塩鉱物ですが、微量成分としてウラン(U)などを含んでいることが多く、また風化・変質に強いことから、特に古い時代の岩石・鉱物の年代測定によく使われます。ちなみに、地球最古の鉱物は約44億年前のジルコンです。

微量成分を多く含むジルコンには、変種として別名をつけられたものもあり、山口石もそのひとつです。鉱物博物館所蔵標本の中核をなす長島鉱物コレクショ

ンの寄贈者・長島乙吉氏が、1929年に山口村(現・中津川市山口)のペグマタイトを調査して見出した鉱物で、東京帝国大学の木村健二郎博士らが分析した結果、リン(P)と希土類元素(レアアース)に富むジルコンと判り、産地にちなんで山口石と命名されました¹⁾。ただし変種名ですので、残念ながら正式な鉱物名としては認められていません。

1) 木村健二郎・弘中佳夫(1936) 東洋産含稀元素鑛石の化學的研究(其二十三) 長野縣山口村産變種ジルコン(山口石)に就て. 日本化学会誌, 57, 1195-1199.



“山口石”(ジルコンの変種)
岐阜県中津川市山口 本沢
標本高さ約7mm [EA96131408]
放射状に集まった褐色の柱状結晶が山口石

(大林)

東山魁夷心の旅路館

白馬の森

青白い森の中に、幻想的な白馬が一頭さまよっているかのように描かれています。「心の奥にある森は誰も窺い知ることは出来ない」という、魁夷がこの作品に添えた詩文も、鑑賞者を心地よい幻想へと誘うかのようです。この深い森にたたずむ白馬は、とらえようもない自分自身の心をさまよっているのでしょうか。あるいは他者の窺いしれない心の奥底を表しているのでしょうか。

とう しょうだい じ

魁夷は1972年、唐招提寺障壁画の作品構想を考えていた時に、ふと「モーツアルトのピアノ協奏曲の第二楽章の旋律が聞こえてきて、一頭の白い馬が針葉樹の繁り合う青緑色の湖畔を横切り、姿を消した」との言葉を残しています。その年の一年間で本制作13点、習作6点、計19点の「白い馬の見える風景」の連作を生み出しました。

「それまでは、風景の中に点景を描き入れないことが私の特色となっていたのだから、私自身にも意外であった」と画家自身も語っているように、風景の中に白馬を描いた作品は、制作数や制作時期の点においても、魁夷の画業の中で特異な作品群です。

この連作に登場する白馬は、風景の中を自由に歩き、たたずみ、緩やかに走っていますが、ひそやかに遠く

の方に見える場合が多く、決して前面に大きく現れることがありません。むしろ風景の静けさを乱すのを恐れるかのように息づいています。画家は、この白馬について、単純に画面効果のために点景として添えたのではなく、それ自体が主題であり、切実なる「心の祈りの象徴」であると述べています。描いた白馬の意味することを魁夷自身は、明確には言及しておらず、見る人の自由な想像力や心にまかせています。

東山魁夷心の旅路館の第Ⅳ期展「静謐—青色の風景」では、「東山ブルー」とも呼ばれる美しい青色の濃淡で描かれた作品を紹介する中で、「白馬の森」を展示します。白馬が何を思い祈っているのか、展示作品にじっくりと問い合わせてみてください。



白馬の森(木版画)
(原画: 1972年 紙本彩色 152.0×223.0cm)
長野県立美術館 東山魁夷館所蔵 (入曾)

天王院 鶩見家文書の初見

江戸時代、上地に天台宗の寺院・天王院があり、代々鶩見家が山伏として祈祷を行っていました。鶩見家は近くにあった飯盛大権現の別当も兼ねており、正月4日には城下の雲林寺等と共に苗木城に登城し、藩主遠山家に見えるのが恒例でした。

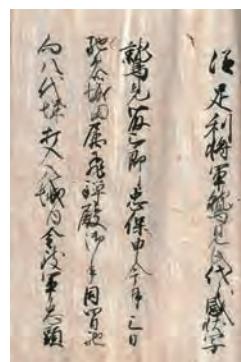
鶩見家が所蔵した文書には、『足利將軍より鶩見氏代々への感状 写』(20通余りが冊子になったもの)があり、鶩見藤三郎忠保の書状写しから始まります。こちらに建武3(1336)年9月と記されていますので、写しとは言え、室町時代初期からの記録が残っていることは大変貴重です。

鶩見家はもともと郡上にありましたが、関ヶ原合戦後、苗木藩初代大名となる遠山友政に従い苗木に移ったようです。

関ヶ原合戦直前(1600年9月)の鶩見家は、忠左衛門保勝(遠藤慶隆の家老400石)が郡上城奪還の際、稻葉軍により戦死し(『郡上郡史』)、その子秀秀に友政が手を差し延べました。秀秀は京都で聖護院の配下に属し、天王院初代盛秀を名乗りました。8代顕秀で明治維新に至り、神職に転じて鶩見兵庫と改名します。

鶩見家文書でもう一つ注目されるのが「玉輪堂日記」(文化6～文政9)です。早くに家督を譲り玉輪法師を名乗った7代憲秀が残したものです。

この「玉輪堂日記」と、実際に詳細なことで知られる11代藩主遠山友寿・12代遠山友禄の日記を比較してみると、文化13(1816)年閏8月4日の大風(台風)に関する記述一つをとっても、地理や立場の違いが見えて面白いものです。個人の日記はなかなか見ることができませんが、百姓や家臣の日記を見ることができれば、藩主の日記と比較することで歴史を一層味わい深く見ることができることでしょう。



従足利將軍鶩見氏代々感状 写



玉輪堂日記

(千早)

中山道歴史資料館

70年ぶりに出てきた渡御神輿行列の写真

2点の写真は、今回の企画展を機に70年ぶりに見つかったもので、「渡御神輿」の行列を撮影したものです。渡御とは神様が神輿に乗って地域を巡ることを意味し、春と秋に行われた祭りでは、中川神社と八幡神社の神様が神輿に乗って行き交う渡御神輿の行列が見られました。この祭りは昭和30年前後から40年頃まで行われました。

写真①の行列(緑町付近)の中には、神輿を先導する高下駄をはいた一本歯の天狗が見えます。写真②の行列(今の栄町付近)後方には、馬に乗った八幡神社の宮司と大きな傘をさした献幣使の姿も見えます。現在ではこの祭りは行われていませんが、神輿は今も八幡神社にあります。



写真①

この祭りの始まりについての記録は見つかっていませんが、戦後復興と災い祓いの思いを始めたものだったのでしょうか。行列には「天狗」が登場していましたが、天狗については『日本書紀卷第23』の「舒明天皇9月」や、『御嶽教祝詞集』の「お祓之詞中(高津鳥)」などにも記述があります。天狗は日本各地の信仰の中で、妖怪扱いされた時代もありますが、近年では神通力を持ち災いを祓う、守り神に近い想像上の存在とされています。



写真②

①②とも市民の方から提供された写真

(伊藤)

文化の日入館無料デーを開催しました

中津川市の博物館6館（苗木遠山史料館、中山道歴史資料館、鉱物博物館、子ども科学館、東山魁夷心の旅路館、熊谷樋つけちギャラリー）では、11月3日（文化の日）に館内を無料開放し、各館で催しを開催しました。

苗木遠山史料館では「クイズラリー」や「箏演奏」、中山道歴史資料館では「蓄音機鑑賞会」や「歴史クイズラリー」、鉱物博物館では「ストーンハンティング（水晶さがし）」や「手づくりアクセサリー」などを行いました。

子ども科学館では、午前中にミニ科学工作まつりを開催し、工作や体験のコーナーを楽しんでいただきました。お子さんには、職員手作りのおみやげもプレゼントしました。

東山魁夷心の旅路館では、先着30名にポスターをプレゼントしました。

不安定だった天候も午後には回復し、たくさんの方にご来館いただきました。



箏演奏
(苗木遠山史料館)



第Ⅲ期展
(東山魁夷心の旅路館)



蓄音機鑑賞会
(中山道歴史資料館)



太陽望遠鏡による太陽観察
(子ども科学館)



ストーンハンティング
(鉱物博物館)

鉱物博物館

改正博物館法に基づく登録博物館となりました

中津川市鉱物博物館は、2025（令和7）年11月19日に新しい博物館法に基づく博物館として登録されました。

当館は、2008（平成20）年に登録博物館となりましたが、2023（令和5）年に施行された改正博物館法で、これまでの登録博物館も改めて登録が必要となったため、岐阜県の審査を受け再登録されました。



寄贈を受けました

2025年9月～11月受贈分

苗木遠山史料館

石原 照也 様 古文書等60点

鉱物博物館

権田 恒雄 様 鉱物標本等1式

株PARAGON 様 鉱物標本等1式

益富地学会館 様 岩石標本1点

川井 一秀 様 鉱物標本5点

ありがとうございました。

休館日

1月

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

熊谷樋つけちギャラリーは金・土・日および国民の祝休日のみ開館

□ 東山魁夷心の旅路館休館日 ■ その他4館の休館日

*年末年始休館日のお知らせ 12月26日（金）から1月5日（月）まで全館休館

中津川市博物館

夜明けの森きらめきパーク
中津川市鉱物博物館

0573-67-2110 <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/m/>

わくわくドーム
中津川市子ども科学館

0573-66-9090 <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/s/>

苗木城跡歴史の広場
中津川市苗木遠山史料館

0573-66-8181 <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/t/>

中津川宿を中心とした歴史の旅

中津川市中山道歴史資料館

0573-66-6888 <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/n/>

木曽谷に抱かれた美術館

中津川市東山魁夷心の旅路館

0573-75-5222 <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/museum/k/>

山と青川の小さな美術館

熊谷樋つけちギャラリー

0573-82-4911 <http://www.kaya-kumagai.jp>

中津川市博物館だより

恵那山

Vol.25, No. 4

2026年1月発行

〒508-0041 中津川市本町2丁目2番21号

JR中津川駅から徒歩約10分

FAX 0573-66-7021

〒508-0501 中津川市山口1番地15

中央自動車道「中津川IC」から車で約25分「道の駅蔵内」

FAX 0573-75-5225

〒508-0351 中津川市付知町4956番地の52

（アートビア付知交差点プラザ内）

中央自動車道「中津川IC」から車で約40分

TEL:0573-67-2110 / FAX:0573-67-2191